

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月8日

【評価実施概要】

事業所番号	3271600508		
法人名	有限会社ハッピーファミリー		
事業所名	グループホーム大社		
所在地	島根県出雲市大社町中荒木八通り 2 6 1 7 - 8 5 (電話) 0 8 5 3 - 5 3 - 2 5 4 5		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町 4 3 番地		
訪問調査日	平成20年8月6日	評価確定日	平成20年8月25日

【情報提供票より】 (20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 1 6 年 8 月 2 0 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 1 0 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 1 2 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建て	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有 (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,340 円		

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 6 名	女性 11 名
要介護 1	3 名	要介護 2	8 名
要介護 3	2 名	要介護 4	4 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 8 5, 2 歳	最低 7 2 歳	最高 9 4 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中島医院・手銭歯科・島根県立中央病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームに入るとすぐ美容室があり、運営者のおしゃれをして生き生きと過ごして欲しいというメッセージが伝わってくる。職員の考えを押し付けない利用者本位の生活の支援が行われていて、利用者は食事作りや趣味を楽しみ自分の力を活かしながら穏やかに暮らしている。職員はこまめに申し送りを行い情報を共有し統一したケアを心がけている。管理者は常にケアの視点や必要な取り組みを職員にアドバイスし、職員と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	「同業者との職員同士の交流」「介護計画の1ヶ月に1回の見直し」「地域とのつきあい」は、意識的に取り組まれ改善されている。「災害対策の備蓄」は引き続き検討課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況 (関連項目: 外部4)
	職員全員が自己評価票を記入し、ユニット毎に話し合いを行ってまとめている。改善に向けた取組をしているが、職員はさらに項目を深く掘り下げて考え評価を改善につなげたいと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組 (関連項目: 外部4, 5, 6)
	利用者の状況、外部評価、地域との交流などについて話し合い、意見交換を行っている。参加者から地域との交流について提案があるなど、会議の機能が少しずつ活かされてきている。3月には会議開催とあわせ避難訓練を実施した。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	運営推進会議やホーム行事「長寿を祝う会」で家族の意見を聞いている。家族からは受診の仕方などについて要望が出され、ホームと家族が連絡を密に取りあい連携することが確認されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地区の清掃活動に利用者と共に参加したり、公民館への空き缶出し、毎日の食材買い、広報誌の回覧などを通してできることから交流を図っている。8月には児童クラブとの七夕会も計画されている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、生活の継続性や主体性、自己決定を尊重した内容のわかりやすい理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で朝礼や職員会議で日々のケアが理念とかけ離れていないか振り返りを行い、管理者は理念に沿ったケアの仕方をアドバイスしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と一緒に地区の清掃活動に参加したり、買い物、公民館への空き缶出し、広報誌の回覧、児童クラブとの交流など、できるところから取り組んでいる。	○	運営推進会議でも出席者から交流の仕方について具体的な意見が出されているので、継続して取り組んでいただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組みユニット毎にまとめている。全員で話しあいケアの統一や課題の改善に努めている。	○	さらに改善計画シート等を活用し、継続して課題に取り組まれることを望みたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や外部評価、医療機関との連携、地域との交流などについて話し合い、意見をサービスの改善に活かしている。	○	多忙な人にも会議の役割を伝え積極的に参加してもらうよう働きかけたり、多彩な顔ぶれの参加を求めるなど、今後の取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、グループホーム連絡協議会の活動を通して情報提供をしたり、市主催の研修会の講師として活動するなど、市町村との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	報告の仕方を工夫し、毎月、計画に基づいた取り組みやエピソードを手紙で知らせている。年4回、広報誌「まめなかね」を発行しホーム全体の様子も伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やメール、運営推進会議、ホーム行事の「長寿を祝う会」などで意見を聞いている。家族から相談や要望が出され、意見を改善につなげている。	○	家族同士が交流する機会を作り家族の総意を引き出す工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は日常的に2ユニットの利用者と顔馴染みで、止むを得ず異動があった場合にも影響がないように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は積極的に職員を研修に参加させたりケアに必要な視点や取り組みについて話し、日々職員の育成に努めている。資格取得に向けても勉強しやすい条件を作り支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員ともに市の認知症グループホーム連絡協議会に参加し交流会や勉強会を行っている。研修を通して知り合った同業者とも訪問しあい学びあっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを見学してもらい、十分に話し合いを行ってから利用してもらっている。利用者の気持を大事にし、状況に応じて家族に訪問を増やしてもらうなど協力を依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者からねぎらいの言葉や「ありがとう」と感謝の言葉をかけてもらうことが多く、逆に癒されていて支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、介護計画作成時にセンター方式を活用することにより利用者の思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を中心に職員全員で話し合い、利用者、家族の意見を反映させた計画を立てている。計画に沿って統一したケアをすることで状態の改善した人もいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回ケース会議を開き医師や看護師の助言も参考にしながら計画に沿った取り組みをしたか確認しあい、家族に手紙で知らせている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と連携し健康管理をすることで入院を回避したり早期退院に努めている。受診支援や外出など、希望や状態に合わせ柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に話し合い納得のいくかかりつけ医による支援をしている。定期的な受診と受診できない時は往診もある。状態によっては家族の希望する医院を受診することができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの事例があり、ホームとして最大限できることを伝え、医師の協力を得ながら対応している。運営推進会議でも看取りについて話しあっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	言葉かけや対応について職員同士で気づきを話し合ったり、他の利用者前でケアをしないよう配慮している。居室へも必ず本人の了解を得て入室している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体の生活を心がけ、食事や外出、晩酌など、利用者のペースや希望を尊重している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出し、食事作り、片付けなど利用者の力を活かしながら一緒に行っている。職員は同じ食事を食べたり弁当の人もいるが、勤務時間以外でも自主的に利用者と食事を取り和やかな雰囲気がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿っていつでも入浴できる。入浴の嫌いな人にも声をかけながら楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、洗濯物たたみ、野菜作り、読書、描画など、利用者の力や趣味を活かせる場面がある。身だしなみやおしゃれにも力を入れ支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日食材の買い出しに出かけ、衣類や趣味の画材の購入、ドライブ、喫茶外出など、外出の機会が多い。季節ごとの外出行事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームのすぐ前は車の往来が激しいが、職員は鍵をかけることの弊害を理解していて玄関は自由に出入りすることができる、利用者の動向を見守り対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月利用者と共に避難訓練を行い非常時に対する心構えを身につけている。3月には運営推進会議にあわせ、通報、避難、消火などの総合避難訓練を実施した。	○	備蓄について、食材の確保は意識化されているが、飲料水の確保について検討していただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて食べやすい形態にし、一人ひとりの摂取量を記録している。入浴前後には水分摂取をしてもらい水分不足にならないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や七夕飾りなど季節感のあるものが飾られていた。テレビの音量や日差し、歩く時の履物の音にも気を配り落ち着いた雰囲気的空間作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味の本やソファ、テーブル、やかん、食卓塩などをそろえ利用者や家族の思いでその人らしさを感じられる居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。